

2 国間国際共同研究フォーラム 地方大学生の地元愛着と就職地選択行動

李 永 俊¹

1. 目 的

地方からの若者の流出は地域の存続に関わる深刻な地域課題となっている。研究代表者らは地方大学生の地元愛着と地元定着の決定要因について、4年間の追跡調査を実施してきた。今回のフォーラムは、その研究成果を共有するとともに、同じような課題を抱えている韓国の現状とその対策案を共有し、若者の地域定着促進策を模索するために行うものである。

2. 実 施 内 容

本フォーラムは、2023年12月12日（火）の18時00分より、弘前大学人文社会科学部4階多目的ホールで開催された。弘前大学人文社会科学部が主催し、弘前大学人文社会科学部地域未来創生センターが共催して行われた。

第1部は、「地元愛着と就職地選択行動」というテーマで、3名の研究報告が行われた。李からは「地域志向教育が地域愛着と就職地選択行動に及ぼす影響」、共同研究者である花田真一氏（弘前大学人文社会科学部）からは「東京に出る若者たちの傾向について」、Um Changok氏（韓国慶北大学校経済通商学部）からは「韓国の地方の若者の首都圏流出と若者の地域定着策を模索する—社会的資本（Social Capital）中心に—」の3つの報告が行われた。

第2部では、「若者の地域定着策を模索する」というテーマで、3名の研究報告が行われた。葛西久美子氏（青森県衝動労働部労政・能力開発課）からは「若者の県内就職・定着、還流に向けた県の施策について」、Ro Kwanguk氏（韓国デグ市地域開発研究院）からは「若者の地域定着の事例研究—大邱文化芸術フリーランサー協同組合（F square）事例を中心に—」、Park Sangwo氏（韓国慶北大学校経済通商学部）からは「人口減少による地域消滅と韓国政府の対応策」の報告が行われ、報告後に第1部の報告者をまじえて活発な意見交換があった。

3. お わ り に

今回のフォーラムは研究代表者らが科学研究費補助金を受けて実施した4年間の調査・研究の結果を共有し、今後の研究発展を図るために行ったものである。フォーラムを通して、研究で明らかになった点と残された課題が明確になった。今後は今回のフォーラムの成果を踏まえ、更なる研究発展につなげたい。なお、本研究成果は、今年度末に発行される報告書において具体的に示す予定である。

¹ 弘前大学人文社会科学部

2 国間国際共同研究フォーラム

地方大学生の地元愛着と 就職地選択行動

参加無料
定員:100名
申込不要



地方からの若者の流出は地域の存続に関わる深刻な地域課題となっています。研究代表者らは地方大学生の地元愛着と地元定着の決定要因について、4年間の追跡調査を実施してきました。今回のフォーラムではその研究成果を共有するとともに、同じような課題を抱えている韓国の現状とその対策案を共有し、若者の地域定着促進策を模索します。皆さまのご参加をお待ちしております。

2023 12 / 12 tue 18:00
▼
20:30

弘前大学人文社会科学部4階
多目的ホール

※学生・一般の方もご参加いただけます

18:05～ セッションⅠ：地元愛着と就職地選択行動

Speakers▷ 嚴昌玉 (Um Changok 慶北大学校経済通商学部・名誉教授) / 花田真一 (弘前大学人文社会科学部・准教授)
李永俊 (弘前大学人文社会科学部・教授)

19:30～ セッションⅡ：若者の地域定着策を模索する

Speakers▷ 朴相雨 (Park Sangwoo 慶北大学校経済通商学部・教授) / 葛西久美子 (青森県商工労働部労政・能力開発課・総括主幹)
魯洸旭 (Ro Kwanguk 地域開発研究院・院長) / 花田真一 (弘前大学人文社会科学部・准教授)
李永俊 (弘前大学人文社会科学部・教授)

主催：弘前大学人文社会科学部 / 共催：弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター

お問い合わせ

李永俊 (弘前大学人文社会科学部)
✉ yjlee@hirosaki-u.ac.jp



弘前大学特定プロジェクト教育研究センター
地域未来創生センター
— Innovative Regional Research Center —

科研費
KAKENHI